

3. 報告「日本のマンガ文化と私の国のマンガ文化」概要

日本のマンガ文化と韓国のマンファ(만화、漫画)文化)

金孝眞(キム・ヒョジン、韓国高麗大学日本研究センターHK 助教授)

1. 日本のマンガと韓国の文化の関わり

1) 韓国の「만화 (マンファ、漫画)」のレキシ

- 만화 (マンファ) : 韓国での名称。日本の漫画と同じ漢字を使用するが、日本のマンガとは違うということを強調する場合が多い(アルファベットでも MANHWA と表記する)
- 最初のマンファ : 1909 年、『大韓民報』に載せられた李道栄 (イ・ドヨン) の政治カートゥーンが発刊され、2009 年を「韓国マンファ 100 周年」として記念している。
- 本格的な発展は植民地時代以降 : 60 年代に SF マンガや少女漫画などが初登場。しかし政治的な理由で厳しい検閲の対象にされ、日刊新聞と貸本所 (マンファバン) が主な流通のルート
- 1980 年代 : 韓国マンファのルネッサンス。年齢層や性別に適したマンガ専門雑誌や青年マンファの登場 (日本のマンガ雑誌と同じスタイル)、少年マンファ・純情マンファ (日本の少女マンガに当たる) ジャンルで有名な作家が多数登場。歴史物の人気
- 1990 年代 : 日本マンガの公式翻訳版が出版され始め、急速に市場で広がる。マンガ全体を「有害媒体」と規定した 1997 年の「青少年保護法」によるマンガ市場全般の縮小 (同年の経済危機も影響)。高校や大学にマンガ関連学科が開設され始める。
- 2000 年代 : 政府の文化コンテンツ産業振興政策。高速インターネットの急速な普及とともに WEBTOON (ネットマンガ) が人気。その反面、雑誌に代表される紙媒体の人気の落ちる。(単行本の場合 : 不法スキャンが問題化)

2) 日本のマンガが韓国の文化に与えた影響

- 韓国マンファの歴史は「韓国のマンファは日本のマンガとどう違うのか、もしくはどう違うべきか」をめぐる問いとの戦い : 近代化と植民地時代の問題
- 1945 年の解放以降 : 公式的に禁止されるが、海賊版の出版や韓国の漫画家が剽窃し、自分の作品として出版するケースが見られるようになる。アニメは「日本色が強くないもの」に限り放送—日本のマンガ作品を韓国のものと誤解する原因となる EX)キム・ヨンスック (김영숙)

- ースタイルやジャンルなどにおいて、日本のマンガに大きな影響を受けるが、その影響自体が問題化される状態：日本に対する反感
- ー1990年代あたから正式な翻訳版が出版され、今やマンガ単行本市場の80パーセント以上を占める
- ーマンガのスタイルだけではなく、サブカルチャーである同人文化なども非常に似ている：特に、インターネットの発達によりほとんどリアルタイムで日本の流行を取り入れている
- ー未だ日本文化の「悪影響」の代表的な事例として論争の対象になることが多い。特に、内容の面では性描写と暴力描写が青少年に与える影響や歴史意識の問題が挙げられる。
- ー日本のマンガ自体だけではなく、そのファンダム（FANDOM）も問題化されることが多い（日本マンガのパロディがメジャーな、韓国の同人文化や着物コスプレなど）

3) 韓国のマンガの傾向、人気

- ー分類：少年漫画と純情漫画（女性向けマンガ全般）が二大ジャンル。また、成人漫画はあるが、韓国では性描写についての規制が厳しいため、あまり発達していない。それよりは大人向けの内容（社会生活を描くという面）を意味することが多い。面白いのは女性向けのBL（ボーイズラブ：男性の同性愛を題材にしたもの）は性描写の有無とは関係なく、成人向けとして扱われていること（日本の翻訳版だけではなく、韓国作家によるものも含まれる）。
- ー少年向けのマンガ：いくつかの少年マンガ雑誌があり、日本と似ているものが多い。実際韓国漫画家の日本市場への進出が増え、日本と韓国で同時に連載する場合も多い
- ー純情マンガ：1980年代—90年代における韓国マンガのルネッサンスを引き起こしたが、青少年保護法の影響を受け、多くの作家が絶筆するか、ほとんど絶筆と同じ状態に陥る。新人作家は輩出されているが、先輩作家ほどの影響力は持っていないのが現実
- ー成人マンガ：成人男子向けは新聞社とのタイアップ、またはWEBTOON。基本的に韓国ではマンガはまだまだ少数の文化であり、成人には適していないものと思われる。その反面、BLマンガ（韓国のBLマンガも含めて）がこのカテゴリーに入り、最近、純情マンガ家の一部がBLの作品を活発に発表している。しかし、一般的に18禁として扱われるため、読者が簡単に買えるような専門雑誌の創刊が非常に難しい状態
- ーWEBTOON：最近のマンガ不況への打開策として登場。マンガ単行本を買う文化があまり発達しておらず、インターネットの普及率が高い韓

国にとって有効な収益モデルとして取り上げられることが多い。誰でもクリックするだけで簡単に読めるという点から、インターネットの一般的なユーザー層（若い男子メイン）を読者ターゲットとするケースが多い。純情マンガもあるが、メジャーではない。（例外：ウォン・スヨンの『メリは外泊中』）

2. マンガでの表現について日韓マンガの比較

1) どのようなマンガが流行っているか？

- －日本で流行りのマンガがリアルタイムで人気を得る
- －例外もある：『ヘタリア』（歴史意識をめぐる問題）や18禁（成人向け）マンガなど
- －韓国マンガの中ではWEBTOONが多い。純情漫画ではBLが増え始め、勢いがある。
- －WEBTOONでは男性向けのハードなストーリーマンガとエッセイマンガの人気の高い。

2) 日本のマンガと韓国の翻訳版にはどのような違いがあるか

- －韓国マンガの単行本は元々左綴じだが、日本マンガの翻訳版は右綴じで発行される
- －サイズ：翻訳版のサイズが大きい（日本のA5サイズ）。日本人マンガ家の名前は英語で表記
- －台詞は横書きに変換される
- －値段：4000－5000ウォンがメインだが、最近では、漫画単行本の高級化に伴い、値段が上がっている（日本から輸入するものとあまり差異がない）
- －昔に比べ、紙や印刷の質がよくなったが、未だファンの不満の的になるケースも多い
- －最近、背景になる日本の文化について訳注をつけるケースが増えている（『さよなら絶望先生』など）
- －性描写：出版社によって改変されるケースが少なくない（現在ではかなり改善されている）

3) キャラクター設定と性別役割分担における違い

- －男性向け：伝統的な性別役割分担が圧倒的に多い。WEBTOONでもこの傾向はあまり変わっていないのが現状。ただ、80年代までのシリアスなヒーローとそれを支えるヒロインという構図と違って、90年代以降はスケベなヒーローとセクシーなヒロインの構図が多くなる。（日本少年マンガの影響？）

一女性向け：伝統的なものとそうでないものの共存。特に、頭がよくて自己主張の強い女主人公が好まれる傾向がある。ウォン・スヨンの作品（『FULL HOUSE』『メリは外泊中』など）しかし、女主人公の性描写については全体的に保守的。女性向けの性描写はBLが多い。